（様式１）

令和４年度　学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
校 長　　西東　直人

１　教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

２　教育目標

（１）高い教養とすぐれた技能を
（２）責任ある言動と協調の精神を
（３）勤労の喜びと健全な心身を

３　教育方針

（１）「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
（２）学校行事、生徒会活動、部活動及びボランティア活動等を通じて、多様な他者と協働しながら、持続可能な社会の創り手となる人材を育成する。
（３）社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力及び社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を育成する。

４　今年度の重点目標

（１）落ち着いた学校生活にする勘所として、教員自らが率先垂範を行い、生徒の社会的自立に向けて必要となる資質・能力を育成する。
（２）学校行事やものづくり及び資格取得等の支援を通し、生徒の「良さ」を見つけ出し、自己有用感及び自己肯定感を高めさせる指導の工夫を図る。
（３）生徒の能力・適性、興味・関心等に応じた学びを通して、職業的自立（キャリア教育・インターンシップ等）に向けて必要となる資質・能力 を育成し、進路実現を図る。
（４）各教科において、生徒１人１台端末を活用し、３つの観点に基づいた授業改善を図る。

（様式２）

重点目標		具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
1	教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。	① 自学の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、自学の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 宿題や課題等に取り組む自学時間を毎日１時間以上確保できる生徒の割合を５０％以上にする。	宿題や課題等に取り組む自学(授業以外で取り組む学習)を毎日１時間以上取り組むことができた。 Ａ　１時間以上取り組んだ Ｂ　十分とはいえないが取り組むことができた Ｃ　少し取り組むことができた Ｄ　取り組めなかった	Ｃ・Ｄの割合が５０％以上の場合は方法を再検討する。	Ａ　７．４％ Ｂ　２９．７％ Ｃ　４２．７％ Ｄ　２０．２％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が昨年度に比べ４％しか増加していない。Teamsを利用した宿題や課題の提示、提出など、自学を充実させるような取組みを行っていきたい。引き続き、宿題や課題に加え、資格取得に向けた自学を推進していきたい。
		② 朝学習、放課後･夏季休業中･定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝学習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝学習や補習授業にしっかりと取り組むことができた。 Ａ　十分取り組むことができた Ｂ　十分とはいえないが取り組むことができた Ｃ　少し取り組むことができた Ｄ　全く取り組めなかった	Ｃ・Ｄの割合が５０％以上の場合は方法を再検討する。	Ａ　３４．７％ Ｂ　４０．５％ Ｃ　２１．９％ Ｄ　２．９％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が昨年度に比べ２．７％増加した。朝学習では引き続き、ホーム担任や教科担任と連携して取り組みを充実させていきたい。また、ＣやＤの生徒が取組めない原因をホーム担任や教科担任と連携して探り、解決に取組んでいきたい。
		③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の Ａ　６０％以上であった Ｂ　５０％～５９％であった Ｃ　４０％～４９％であった Ｄ　４０％未満であった	Ｃ・Ｄの場合は方法を再検討する。	Ａ　３３．９％ Ｂ　５７．５％ Ｃ　６．６％ Ｄ　２．０％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が９１．４％であり、ほとんどの生徒が自分の学力に合った授業で学習に取り組んでいることがうかがえる。今後も個々の学力に応じた授業形態により学習効果を高めていきたい。
		④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内ＬＡＮで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部・学年主任･担任･生徒･保護者による面談を行う。	生徒や保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 Ａ　生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった Ｂ　有効だった Ｃ　生徒･保護者ともに現状認識が足りない Ｄ　担任から生徒･保護者への意思疎通が十分なされなかった	Ｃ・Ｄの割合が７０％以上の場合は指導方法を再検討する。	Ａ　１１．３％ Ｂ　６９．４％ Ｃ　１６．１％ Ｄ　３．２％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が８０．７％であり、昨年度と比べ５．３％増加した。引き続き、成績システムの資料を学習指導に活用していくけるよう、働きかけていきたい。
		⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知･把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 Ａ　十分周知された Ｂ　一応周知された Ｃ　あまり周知されなかった Ｄ　周知されなかった	Ｃ・Ｄの割合が４０％以上の場合は指導方法を再検討する。	Ａ　３８．７％ Ｂ　５６．５％ Ｃ　４．８％ Ｄ　０．０％ （アンケート結果）	Ａ＋Ｂの結果が９２．２％であり、昨年度と比べ、３％増加した。引き続き、グループウエアの掲示板での周知と朝礼での伝達と併せて行っていきたい。
		⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率	就職決定率が Ａ　９８％以上 Ｂ　９５％以上９８％未満 Ｃ　９０％以上９５％未満 Ｄ　上記以下	Ｃ，Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	就職決定率　Ａ　１００％	生徒、保護者、学校（職員）が一体となり取り組むことが採用内定へと繋った。 これまでの良い点を残しつつ、ガイダンスや模擬面接等、各活動の改善を図った。
			【成果指標】 進学決定率	進学決定率が Ａ　９８％以上 Ｂ　９５％以上９８％未満 Ｃ　９０％以上９５％未満 Ｄ　上記以下	Ｃ，Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　１００％ 進学決定率 １０４人／１０４人　　決定率１００％	担任との連携、情報共有を緻密に行った結果であった。４年制大学に進む生徒も多くなってきていることから、基礎学力向上を目指した取り組みが必要である。
		⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 本の貸出冊数	一人当たりの年間貸出冊数が２．５冊を上回ることを目指す。 Ａ　上回った Ｂ　ほぼ同じであった Ｃ　少し下回った Ｄ　かなり下回った	Ｄの場合は、取り組みの見直しを行う。	Ｂ　ほぼ同じであった （２．４冊）	目標値を若干下回ったが、ほぼ同じであると判断される。新型コロナウィルス感染拡大に伴う生徒の欠席等が貸し出し冊数に影響を与えたと推測される。 来年度は、図書館の企画等に関する広報活動を活発化させ、貸し出し冊数の増加を目指す。

（様式２）

重点目標		具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
2	社会への対応力、及び人間力（規範意識、公共心、リーダシップ等）の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で Ａ　一人もいない Ｂ　５人未満である Ｃ　５人以上である Ｄ　１５人以上である	Ｃ・Ｄの場合は指導方法を再検討する。	Ｃ　５人	今年度は、カッパの未着用者が年間で５人だけであった。ほとんどの生徒が小雨でもカッパを着用し、ここ数年の先生方の声掛けが実を結んだ結果である。今後は、天気予報を意識させるなどして違反者ゼロに近づけていく。
		② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数（半期） Ａ　５人未満 Ｂ　６人～１０人未満 Ｃ　１０人～１５人未満 Ｄ　１５人以上	Ｃ・Ｄの場合はクラス毎に指導する。	Ａ　４人	夏休み前に１年生から３人使用違反がある。携帯所持年齢が下がってきていることもあり、情報モラルの意識低下も考えられる。情報モラルや規範意識の定着を図っていきたい。
		③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数（年間）が Ａ　１人未満 Ｂ　１人～２人未満 Ｃ　２人～３人未満 Ｄ　３人以上	Ｃ・Ｄの場合は指導方法を再検討する。	Ｃ　平均２．８人	例年より、大雪による交通渋滞や体調不良による通院のあと登校してくる生徒が多かった。早めに行動することはもちろんであるが、特に１年生に対しては悪天候が予想される場合の対応を、担任などを通して情報提供していく必要がある。
		④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気よく挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が Ａ　８０％以上 Ｂ　７０～７９％ Ｃ　６０～６９％ Ｄ　６０％未満	７０％未満の場合改善を検討する	Ａ　６９．１％ Ｂ　２８．７％ Ｃ　１．９％ Ｄ　０．３％ （アンケート結果）	自ら挨拶するだけでなく、会釈をする生徒も増えてきた。さらにレベルを上げるために目線を合わせたるなど気持ちの伝わる挨拶を意識して実施していきたい。
		⑤ いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するサインを見逃さないことを意識している。 Ａ　よくはてはまる Ｂ　まあまああてはまる Ｃ　あまりあてはまらない Ｄ　あてはまらない	Ｃ・Ｄの割合が３０％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　６４．５％ Ｂ　３３．９％ Ｃ　１．６％ Ｄ　０．０％ （アンケート結果）	いじめアンケートや面談を利用して、生徒の実態把握に努めるとともに、生徒の些細な変化にも目を配り、こまめに声かけをしていく環境作りをしていく。また、いじめの定義について教員間で共有を図り、些細な事でも学年主任や生徒指導主事に情報が集まる体制を整えていく。
		⑥ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 Ａ　ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた Ｂ　だいたい行うことができた Ｃ　あまり行わなかった Ｄ　ほとんど行わなかった	Ｃ・Ｄの割合がが２０％以上の場合は、取り組み方を再検討する。	Ａ　７８．１％ Ｂ　２０．１％ Ｃ　１．５％ Ｄ　０．３％ （アンケート結果）	良好な結果ではあるが、今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルの大切さも考えさせていきたい。
		⑦ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。１年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が Ａ　できる Ｂ　必要である時にできる Ｃ　あまりできない Ｄ　できない	Ａ・Ｂ合わせて５０％未満の場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　２８．０％ Ｂ　５５．０％ Ｃ　９．６％ Ｄ　７．４％ （アンケート結果）	昨年度Ａ・Ｂ合わせて７２．７％に対し、今年度は８３％と、保健室や相談室を利用しやすくなったと答えた生徒が増えている。今年度は特に、相談室の扉を開放し、配布物等を通じて利用を呼びかけたことから、来室件数も大幅に増えた。引き続き、生徒が利用しやすい環境を整えていきたい。
		⑧ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、ＫＹ教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が Ａ　なし Ｂ　１～３件 Ｃ　４～６件 Ｄ　７件以上	Ａでなければ安全教育のあり方を再検討する。	【機　械　科】Ａ 【電　気　科】Ａ 【電子情報科】Ｂ 【建　築　科】Ａ 【土　木　科】Ａ	【電子情報科】 １年生のはんだ付け実習において、軽いやけどが２～３件あった。その原因には、作業中の整理整頓も含まれる。安全教育の一環として、ＫＹＴ予知訓練などを取り入れる。工業実習における思考判断表現を育成する。

（様式２）

重点目標		具体的取組		評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
3	部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。	①	運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％～９０％未満 Ｃ　７０～８０％未満 Ｄ　７０％未満	Ｃ以下の場合は次年度の改善策を検討する。	Ａ　９０％以上 ５月現在 運動部　４５４ 文化部　２１８ 合計　　６７２（９３％）	運動部ならびに文化部両方で本校の生徒はがんばっている。
				【努力指標】 引き続き、高い１年生年度当初の部活動加入率の維持を図る。	１年生年度当初の部活動加入率が Ａ　９０％以上 Ｂ　８０％～９０％未満 Ｃ　７０～８０％未満 Ｄ　７０％未満	Ｃ以下の場合は次年度の改善策を検討する。	Ａ　９０％以上	今後も全員の入部を促していく。
				【成果指標】 県大会以上の大会で優勝する部活動数の増加を図る。	県大会以上の大会で優勝できた部活動数が Ａ　７部以上 Ｂ　４部～６部 Ｃ　１部～３部 Ｄ　なし	Ｄの場合は対策を考える必要がある。	Ａ　７部以上 県大会優勝 弓道・剣道・相撲・新体操・バドミントン・ボウリング・水球・柔道・建築・土木技術など	どの部も、よく頑張っていた。
				【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が Ａ　十分満足している Ｂ　ほとんど満足している Ｃ　あまり満足していない Ｄ　満足していない	Ａ・Ｂの割合が７０％未満の場合は、再検討する。	Ａ　４５．５％ Ｂ　３７．４％ Ｃ　　９．３％ Ｄ　　７．８％ （アンケート結果）	Ａ・Ｂ合わせて８０％を超えている。コロナによる規制も緩和されてきて、満足のいく活動ができたものが多くなったと考えられる。
		②	応援練習と応援実践を通して、学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 生徒が自ら考えて応援を指導する。	高校相撲での会場で応援する人数が Ａ　３００人以上 Ｂ　２００人以上 Ｃ　１００人以上 Ｄ　１００人未満	Ｄの場合は、対策を検討する。	Ａ　３００人以上 全校応援を実施７００人以上が参加した。	ようやく人数制限がなくなり、本校の判断で午前と午後を分けるローテーションで実施した。
				【満足度指標】 応援を通して、愛校心を高めることができた。	応援に参加して Ａ　大変実感できた Ｂ　実感できた Ｃ　あまり実感できなかった Ｄ　全く実感できなかった	Ｃ・Ｄ合わせて３０％以上の場合は取り組みを再検討する。	Ａ　４０．０％ Ｂ　４６．９％ Ｃ　　８．６％ Ｄ　　４．５％ （アンケート結果）	他の部の総体前に、勢いがつく活動になったと思う。
		③	金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 金工祭を盛り上げるために、主体的に取り組んだ。	金工祭での活動に Ａ　主体的に取り組んだ。 Ｂ　少し主体的に取り組めた。 Ｃ　あまり主体的に取り組めなかった。 Ｄ　主体的に取り組めなかった。	Ｃ・Ｄ合わせて３０％以上の場合は取り組みを再検討する。	Ａ　７８．４％ Ｂ　１８．７％ Ｃ　　１．５％ Ｄ　　１．４％ （アンケート結果）	久々に1日半の開催、中庭ステージの復活、保護者だけであったが、一般開放の復活などで、今年の金工祭は満足できるものになったと思う。
		④	ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が Ａ　１００人以上 Ｂ　８０～１００人 Ｃ　６０～８０人 Ｄ　６０人未満	Ｃ･Ｄの場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　１００人以上	金沢マラソンのボランティア等、積極的に参加してくれる生徒が多い。
		⑤	コロナ感染の影響がなくなり、集会等を行えた時に、校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が Ａ　８０％以上である Ｂ　７０％～７９％である Ｃ　６０％～６９％である Ｄ　６０％未満である	Ｃ･Ｄの場合は、取り組み方を検討する。	Ａ　　９．７％ Ｂ　４０．３％ Ｃ　３８．７％ Ｄ　１１．３％ （アンケート結果）	応援練習で校歌斉唱はできたが、高校相撲金沢大会ではまだ校歌斉唱が自粛中であった。
		⑥	高校生ものづくりコンテスト大会（旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等）及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において Ａ　全国大会入賞 Ｂ　北信越大会(ブロック大会入賞) Ｃ　県大会入賞 Ｄ　入賞なし	Ｄの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 Ｂ以上を目指す。	【機　械　科】Ｂ 【電　気　科】Ａ 【電子情報科】Ｃ 【建　築　科】Ｂ 【土　木　科】Ｂ	【機　械　科】 高校生アイディアロボットコンテスト 全国大会出場 【電　気　科】 ジャパンマイコンカーラリー 全国大会４位 【電子情報科】 ものづくりコンテスト電子回路組立部門 石川県大会２位入賞、北信越大会７位 【建　築　科】 ものづくりコンテスト木材加工部門 北信越大会２位 【土　木　科】 ものづくりコンテスト測量部門 北信越大会優勝、全国大会出場

（様式２）

重点目標		具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など
4	キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。	① 就業体験学習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習に参加し Ａ　進路意識が大いに高まった Ｂ　進路意識が少し高まった Ｃ　進路意識はかわらなかった Ｄ　進路意識を高めるに至らなかった	Ｃ，Ｄの場合は事後指導をしっかり行い、次年度の事前学習について検討する。	Ａ　５８．８％ Ｂ　３９．２％ Ｃ　　２．０％ Ｄ　　０．０％ （アンケート結果）	まだまだ新型コロナウィルス感染の影響がある中、実施されなかった、または中止となった就業体験学習があったのは残念であった。企業からいただいた評価にはお褒めの言葉だけでなく、厳しくも真摯なアドバイスが多くあった。貴重な意見として今後の指導に役立てていきたい。
		② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	３年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が Ａ　８０人以上 Ｂ　６０人以上８０人未満 Ｃ　４０人以上６０人未満 Ｄ　４０人未満	Ｄの場合は、取り組み方を再検討する。	Ｄ　４０人未満	今年度のジュニアマイスター受賞者数は２６人であった。受賞資格を有する３年生（５１人）のうち、半分程度しか申請しなかったため大幅に減少した。今後は資格取得の促進に加え、アナウンスを含めた申請のサポートを手厚くし、受賞者が増加するような支援をいきたい。